

2025年度

アマモ場

Seagrass Beds

はじめに

我が国の沿岸域は、磯、干潟、アマモ場、藻場及びサンゴ礁に代表される生物多様性の高い貴重な生態系を有しています。

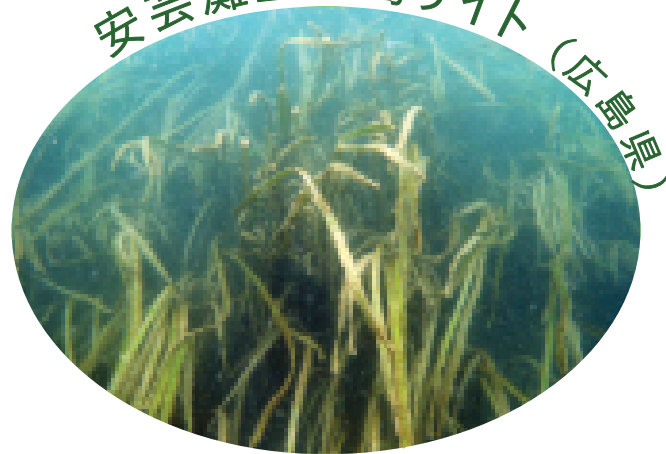
私たちは、これらの生態系から魚介類や海藻などの食料を得るとともに、潮干狩りや観察会などの余暇や教育活動の場としても利用しています。また、これら沿岸域生態系の機能（水質の浄化、台風等による高波を防ぐ作用、二酸化炭素を吸収する働きなど）は、私たちの生活に様々な恩恵をもたらしてくれます。

「アマモ場」とは？

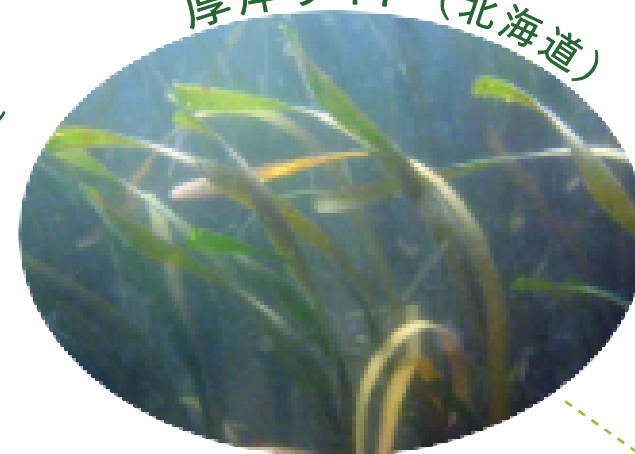
「アマモ場」とは、アマモなどの海生の顕花植物（海草類）が群生した生態系です。アマモ類は海底に地下茎を張り巡らすことで砂地を安定化するとともに、光合成を通じて海中の二酸化炭素を吸収しています。

水産資源生物を含む魚、エビ、イカなどが成育・採餌・産卵する場所としてアマモ場を利用するため、非常に生産性が高く、生物多様性が高い生態系であると言えます。

安芸灘生野島サイト（広島県）



厚岸サイト（北海道）



アマモ場調査

2008年度から「毎年調査」と「5年毎調査」の2つの調査により、各サイトのアマモ類の被度などのデータからアマモ場の長期変化をとらえ、自然環境保全のための基礎情報を得ています。

2025年度は、日本沿岸の6箇所のサイトで18度目の毎年調査を実施し、出現するアマモ類の被度などを調べます。

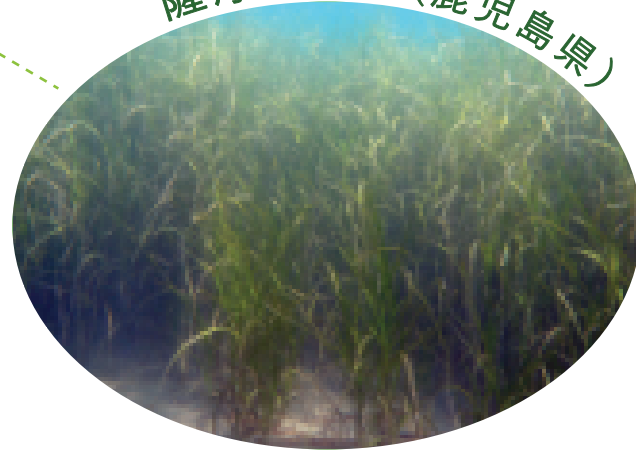
大槌サイト（岩手県）



富津サイト（千葉県）



薩摩サイト（鹿児島県）



石垣伊土名（沖縄県）



速報掲載更新履歴

- ☒ 2025. 10. 10 大槌サイト [▶ Link](#)
- ☒ Coming Soon 厚岸サイト [▶ Link](#)
- ☒ Coming Soon 富津サイト [▶ Link](#)
- ☒ Coming Soon 安芸灘生野島サイト [▶ Link](#)
- ☒ Coming Soon 薩摩サイト [▶ Link](#)
- ☒ Coming Soon 石垣伊土名サイト [▶ Link](#)

参考情報

- [▶ Link](#)
- [▶ Link](#)
- [▶ Link](#)
- [▶ Link](#)

- ☒ モニタリングサイト1000 アマモ場 調査の調査項目と内容
- ☒ 2024年度モニタリングサイト1000 アマモ場 調査速報
- ☒ 2024年度モニタリングサイト1000 アマモ場・藻場 調査報告書
- ☒ モニタリングサイト1000沿岸域調査 磯・干潟・アマモ場・藻場 2008-2022年度とりまとめ報告書

大槌サイト

- 岩手県大槌町・釜石市 -

- ▶三陸地方リアス海岸域に位置する船越湾と大槌湾の湾奥部に形成されるアマモ場です。
- ▶船越湾は湾口が広く、比較的開放的な湾であるのに対し、隣接する大槌湾はより奥行きが大きく、湾口が狭い湾となっています。
- ▶2011年3月の東日本大震災の津波による影響を受け、アマモ場の大部分の植生が数年間消失しました。震災以前、大槌湾は世界最長のアマモ類（タチアマモ）の生育地でした。
- ▶現在の岩手県内において、船越湾はオオアマモの生育が確認される限られた場所です。



▲ 調査風景：方形枠中のアマモ類群落の高さを、折れ尺を用いて測定している様子です。



▲ アマモの花：根浜エリアのSt.1のアマモの花穂に並ぶアマモの花です。一番上の花から白い糸のように見えるのは、花粉が放出されている様子です。花粉は水中を漂い、別の株の雌花に受粉します。

調査結果概要

本サイトでは、岸から沖方向へ複数の調査地点（St.1～7）を設定し、水深勾配に沿ったアマモ類の被度等を計測しています。

吉里吉里エリアにおいて、水深の浅い場所の調査地点（St.1～3）では、主にタチアマモの被度が増加したことにより、アマモ類の被度は前年よりも高くなっていました。一方、St.7を除く水深10m以深の調査地点（St.4～6）では、調査枠内にアマモ類は見られませんでした。

根浜エリアにおいては、全ての調査点においてタチアマモが方形枠内に出現しました。St.1およびSt.5を除く全調査点においてタチアマモの被度が前年よりも高くなったことから、根浜エリアにおいてもタチアマモは増加傾向にあり、一部の調査点では優占種がアマモからタチアマモに変化しました。



▲ タチアマモの群落：根浜エリアで観察された高密度なタチアマモの群落です。水深帯によって草体長は異なりますが、この場所では2mくらいの長さに伸長していました。

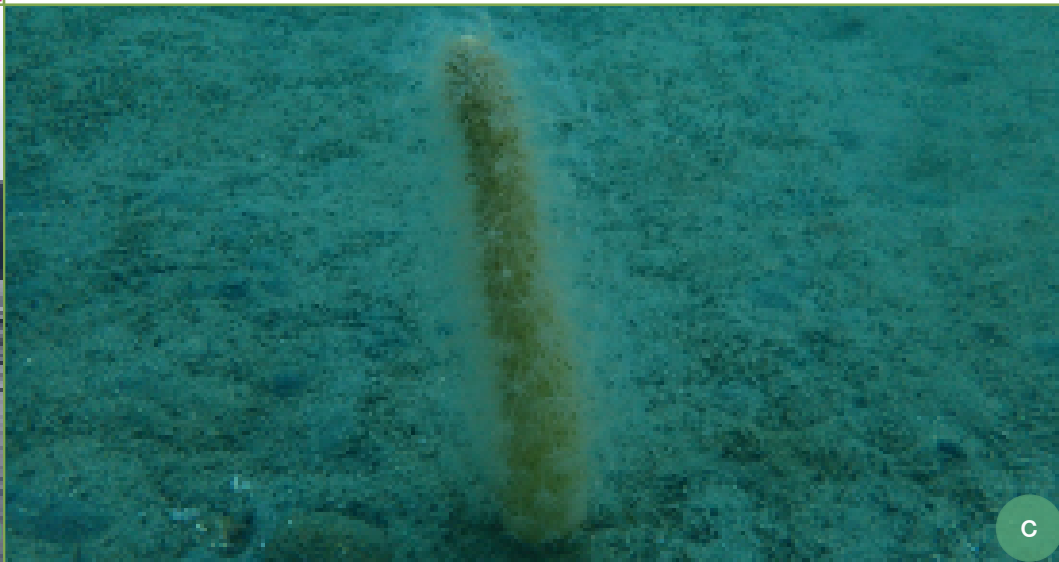


* は調査日程に余裕があれば調査を実施するエリア

この地図は国土地理院地図を基に作成



▲ 調査地の景観：吉里吉里エリア（船越湾）のSt.6において陸側から海側に向かって撮影した様子です。湾内では、岩手大槌サーモンなどのサケマス類の養殖が盛んに行われています。



▲ ウミサボテン：吉里吉里エリアの水深16m付近（St.6）において観察されたウミサボテンです。本種は夜行性であり、昼間は砂の中に潜っていますが、写真の個体のように昼間でも砂中から体を伸長させていることがあります。体中から白い触手を広げ、海中の餌をとらえて食べています。



▲ ウコの1種・オカメブヅク：吉里吉里エリアで観察されたウコ類の1種のオカメブヅクです。根浜・吉里吉里の両エリアで数多く観察されました。この個体は砂底の表面近くで確認されましたが、通常は砂泥中に潜り、体中に生えた短い棘を用いて移動しています。

調査日 2025.6.30 - 7.1

サイト代表者：早川 淳

（東京大学大気海洋研究所）

調査者・調査協力者（所属）

早川 淳（東京大学）【a, d, f】

神吉 隆行（九州大学）【c】

福田 介人（フクダ海洋企画）【b, e】

【写真撮影】

平野 昌明（東京大学）

鈴木 貴悟（東京大学）

畠山 聖矢（東京大学）

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。

出典：モニタリングサイト 1000 2025年度アマモ場調査速報（環境省生物多様性センター）
(https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/amamoba_2025.pdf)

これまでのアマモ場調査の報告書はこちら。

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

これまでのアマモ場調査で得られたデータはこちら。

https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_seagrassbeds.html